

地域貢献WG

佐藤卓治

I 活動の概要

本年度の地域貢献ワーキンググループ（以下WG）は、21年度に引き続き次の3項目について活動を行った。

- (1) 大学開放イベントへの参加
- (2) こどもイベントへの参加
- (3) パソコンを組み立ててみよう講習会

II 活動に際し注意を払った点

1) イベント参加に関して

1)-1 各学科イベント用応援動員との調整

現在、技術部所属の技術職員は、工学部内の各学科、拠点に長期業務依頼派遣されており、派遣先の部署がイベントに参加している場合がある。その場合は派遣先のイベントへの支援を優先し、不足する人員の補充は、イベント当日に派遣先における支援予定の無い技術職員の中から応援参加を依頼する、という形を採用している。

1)-2 工作に関する安全性の検討

イベントに関して、現在、対象者を小、中学生以下と考えている。よって工作中的の事故防止等、安全対策には万全の注意を払って取り組んでいる。たとえば

- ・工作には原則として参加者が刃物を扱う必要が無いように、予め下準備をする。
- ・LEDライトを直接目に当てないように、指導を徹底する。

以上、考えられる事態に対し、対応策を講じた。

2) パソコンを組み立ててみよう講習会に関して、

パソコンを組み立ててみよう講習会は通年で複数回行われるため、講習指導スタッフの長期業務依頼支援先業務との兼ね合い、多数の学生参加者を募るためのスケジュール調整、等の問題があった。

このため、事前に次のような計画を立てた。

- ・長期業務依頼支援先の業務の妨げとならぬよう、講習回数の制限をした。
- ・学生の参加スケジュールが立て易いように、夏期休暇中等、長期の休みにある程度講習開催を集中させ、複数回の開催予定をポスター等で明示するようにした。

III 活動の実行と結果

各活動の実行指導者は次の通りである。

- ・(1) 開放イベント；赤峰 電気・電子工学系第1技術班長、
- ・(2) こどもイベント；木庭 電気・電子工学系第2技術班長、
- ・(3) パソコンを組み立ててみよう講習会；西村 電気・電子工学系副技術長

以上3名が、夫々実行リーダーとしてスタッフを指揮し、地域貢献WG活動を行った結果、(1)(2)の両イベントは事故も無く、集まった多数の参加者の好評の中、無事終了することが出来た。

また、(3)のパソコンを組み立ててみよう講習会は、教材のパソコン台数に応じた受講者を概ね確

保でき、学科との業務上のトラブルも無く、教員を含む参加者から好評を得た。

IV 活動の詳細

内容は、つぎのところに記載している。

- ・大分大学学内イベント
 大学開放イベント2010
 こどもイベント2011
- ・パソコンを組み立ててみよう

V 平成23年度に向かったの取り組み

(1) 開放イベント、こどもイベントについて

安全面に最大限の留意を払いながら、ものをつくる喜びをこどもが味わえるようなテーマを模索していく。また、大学全体としてのバランス（学科イベントとの人員調整）が、スムーズにいくように注意を払い、総合的に来訪者がもっとも楽しめるようなイベント参加を目指す。

(2) パソコンを組み立ててみよう講習会について

Ⅱ-2)に記載した注意点を踏まえたうえ、引き続き講習会を開く。

また、教材器具、および業務依頼とのバランス等、スタッフの事情が許される範囲内で、工学部以外の学内にも講習会の範囲を拡げることも検討してみる。

さらに、実験的試みとして、組立講習会開催中にQ&Aコーナーを設け、パソコン使用時に遭遇する様々な疑問点、困った状態への対策等の相談も受け付ける方針である。